

歴史民俗資料館だより

令和6年11月号 霜月 仙台市歴史民俗資料館



〒983-0842 仙台市宮城野区五輪1-3-7 TEL 022-295-3956 FAX 022-257-6401

開館45周年・建物築150年記念

特別展「仙台駄菓子と石橋屋」 11月23日(土・祝)から



石橋屋としだれ桜



石橋屋の店内



吹き飴細工の職人



駄菓子の模型



飴細工の模型

仙台の食文化を特徴づける言葉の一つである「仙台駄菓子」は、昭和30年代に広く語られようになりました。この「仙台駄菓子」は戦前から各地の駄菓子を調査し続けた石橋幸作氏の研究成果によって生み出されたものです。石橋氏は仙台の駄菓子店を経営する職人でありながら、駄菓子研究に心血を注ぎ、後世に様々な研究成果を残しました。

企画展では、令和5年に閉店した石橋屋から寄贈された資料を中心に展示し、仙台地方の食文化の一つである「仙台駄菓子」についてご紹介します。

■ 展示解説

11月23日(土・祝)

①11時から ②14時から

※予約は不要です。ただし、入館料が必要です。

■ 展示図録を販売いたします。



れきみん秋祭り2024 第一部



講座レポート 「一緒に作ろう！ペーパークラフト」

仙台市歴史民俗資料館では、開館 45 周年・建物築 150 年を記念して、ミュージアムグッズを発売しています。題して「**考えて作るペーパークラフト 旧歩兵第四連隊兵舎**」です。グラフィックガレージデザイン代表でデザイナーの山本泰士氏にデザインを依頼しました。

10月13日にペーパークラフトのお披露目を兼ねて、親子対象の標記講座を行いました。講師はデザイナーの山本泰士さんです。

参加したのは親子5組11名、上手に作るためには竹串などで折り目をつけること、定規をあててカッターを使うことなどの方法を教えていただき、親子一緒に安全に気をつけながら作成していました。出来上がった時の子供たちの笑顔が素敵でした。山本さんからのサプライズのプレゼントもあり、秋休みの一日、親子一緒に楽しい活動になったようです。



仙台の初冬の年中行事 霜月（11月）



歴民の白萩（10月）

農家では、塩を入れない小豆粥を十一月三日、十三日、二十三日などに神棚に供える、これを**お大師講**（たいしこう）といい、これらの日を三大師（さんだいし）、三日大師（みっかだいし）などと呼ぶ。また、十一月四日、十四日、二十四日に供える家もあり、これを四日大師（よっかだいし）と言う。

お大師様は子だくさんだから、長い箸で子供たちに食べさせるといふ伝承があり、二、三尺くらいの長い萩や茅の箸を添える。

十一月八日は火を扱う職人の祭りである**鞆祭**（ふいごまつり）が行われる。鍛冶屋などはこの日は休日、工場の荒神様をお祀りし、弟子や職人と膳を囲み祝う。

戦前は、農家の油締（あぶらしめ）作業が十一月十五日に行われ、**油締祝**などと称して神棚に餅を供えた。町の油屋や各家々でも祝い餅を搗いたという。

（参考文献：仙台市史 特別編6「民俗」）

※**大師講**（だいしこう）とは・・・

旧暦11月23日の晩に家々を訪れる大師様に、小豆粥や団子を供える行事。東北、北陸、中部や山陰地方など広域に伝承されている。ことに日本海沿岸地域では顕著で、講と称するが家の祭りである。

現在は大師様といえばほとんどが弘法（こうぼう）大師を想定しており、ほかに智者（ちしゃ）大師や聖徳太子などもみられる。しかし、大師講は霜月二十三夜という時期的なことから、その年の新穀を祝う新嘗祭（にいなめさい）的な農耕儀礼が背景にあると考えるべきものであろう。その際に迎える神をダイシとしたのは、大子（おおいこ）つまり神の子ということからきたといわれているが、そうしたダイシ信仰が弘法大師の巡行伝説と結びついたと考えられる。

（参考文献：日本大百科全書（ジャポニカ）より）